

公表日 2024年 12月 20日

事業所名 ごぼんはうさくら 広島井口教室

保護者等数(児童数) 25名 回収数 18件(割合72%)

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	1		3	他教室へ体操やボウリングへ行ったり、活動に応じてスペースを確保されていて良いと思います。	イベントに合わせて、教室を移動したり、スペースを確保する対応を続けていく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1		5	本人に合わせてできることをさせていたいただいてありがとうございます。(食事・トイレ等)	児童に合わせて職員を配置していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	1		3	ほとんど訪れる事がないので、あまり覚えていないのですが、分かりやすくロッカーを準備してあったり、ホワイトボード?にスケジュールを示してあり、良いと思います。	保護者様にとって、見えづらい環境とならないように、活動写真や療育内容などで説明していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	1		1	室内が明るい雰囲気ですとも良いと思います。	清潔に過ごしやすい環境づくりを続けていく。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	1			本人に合わせて支援していただけてとても感謝しています。	お子さまへ適切な支援を行えるように専門性を高めていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16			2	ご意見なし	
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	17			1	いつも面談や計画書を定期的に作ってらっています。保護者の思いをきちんと聞いて下さっていると思います。	保護者様のニーズをきちんと拾っていく。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1		2	ご意見なし	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	1		1	ご意見なし	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16			2	毎日、色々な活動をして下さっているように、楽しく集中してできるプログラム	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8		1	9	幼稚園へのお迎えと、午後からの登所にご	職員を増やし、幼稚園や保育園へのお迎えも対応できるようにしていく。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					契約時に説明をしている。分からない場合には、個別でその都度対応している。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18					電話での対応も多いため、分かりづらい面もあると思う。保護者様が理解できるように、努めていく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	1	2	7	講演会と放デイの紹介はとても勉強になりました。子どもにそった支援方法のプリントをく	西区や広島市からくる講演会の情報などを保護者に送付するようにしていく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	15	1		2	ひらがなやカタカナなど、おかげさまでかなりスムーズに読めるようになっていますが、書くこと(お絵かきも含む)が苦手	保護者様からのご意見を拾い、支援に役立てられるようにしていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	1	1	1	利用頻度が少ないため	面談についての案内を出し、定期的な面談につなげていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	1			一時期、子どもの痲痺が激しく、心が疲弊している時TELをくださり、プランのみなおしも考えてくださいました。	児童一人一人を大切に、保護者様の負担に寄りそった対応を心掛けていく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	2	1	13	ご意見なし	保護者様からの要望が多い点である。保護者様同士の交流の場を設けられるように計画していく。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	2		1	ご意見なし	面談や相談は個別に対応している。困りごとがあれば、LINEやリトムなどで連絡してもらい、スタッフが対応する。面談を受け付けていることを周知していく。	

保護者への説明等	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17		1	毎日の連絡帳や前回の面談では普段の子どもの様子を知る事ができ嬉しいです。	普段の様子を送迎時やリトムなどで詳しく伝えていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	1	1	日誌やSNSや先生からの話で本人の様子を聞けています。	保護者様に分かりやすく、情報を発信していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	1	2	ご意見なし	児童同士の交流を保護者様に伝える際にも、個人情報知られないように配慮している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1	3	ご意見なし	マニュアルは作成されているが、周知方法に問題があり、保護者様に知られていない現状がある。改善の余地がある。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1	6	訓練されているとは思いますが、その様子を直接は見ていないため	支援現場を直接見学できる機会や茶話会などを企画し、知ってもらえる場をていきょうしていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15		3	ご意見なし	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1	2	ご意見なし	緊急時の連絡方法が統一されていない節がある。緊急時の対応について、考えていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17		1	ご意見なし	スタッフの変わらない態度に安心感を覚え、来所を楽しみにしてくれることに繋がっている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17		1	ごぼんの車が来るのをたのしみにしています。 お友達と関わっている様子を連絡帳で知	楽しみにしていただけるように子ども達と触れ合っていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	1	1	いつも手のかかる子に寄りそって頂いてありがとうございます。 専門的なこと(言語や姿勢矯正など)は難	研修などを積み重ね、専門性を高めていき、保護者様のニーズに応えられるようにしていく。

公表日 2024年 12月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 広島井口教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		児発と放デイの部屋を臨機応変に使用している。	児発も放デイもいる時には、各自の部屋の中で活動を済ませる必要がある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		午前中は児発を中心に、午後からは放デイを中心にスタッフを配置するようにしている。	放デイの送迎の際には、現場が手薄になってしまいがちである。スタッフ間の声掛けが必要である。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1		子ども達には分かりやすい環境となっているが、保護者様がその状況について知る機会が少ない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		清潔にし、子ども達が活動しやすいようにおもちゃなどを整理している。	子ども達が中心となって片付ける習慣に繋がっていくように支援する必要がある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10			個別に使用できる部屋がない。教室の構造上、一人に慣れる場がない。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	1		日々忙殺され、振り返りが難しい。ミーティングなどで目標を設定し、振り返りができるようにしていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			年1回の自己評価アンケートのみ。保護者の意向をすくいとれるツールを考えていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		ミーティングやケース会議、何気ない会話の中で職員の意見を交換している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2	数か月に一度、担当バイザーがアドバイス	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		研修案内を貼りだし、受けた研修があれば積極的に受講できるように支援している。	研修を受けるための補助が少なく、現場の運営のため希望した者全員が参加できない時がある。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		子ども達が飽きないように、イベントを考えている。	毎日通う子は、同じようなイベントだと飽きて参加しなくなる。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10			現場スタッフから子どもの様子を聞き取り、まとめる時間がとりにくい。紙面などのツールを上手に使っていく。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		ミーティングやケース会議を利用している	普段、会議に参加しないスタッフにも聞き取りを行い、児童への理解を深められるように、多くの視点を取り入れられるようにする。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		個別の日報に、個別支援計画を差し込み、いつでも確認できるような配慮をしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	2		標準化されたツールがなく、日々の観察に頼っている節がある。使いやすいツールの開発が求められる。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	5		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10			児童からの要望も聞きつつ、飽きないようなプログラムを探して、考えている。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		幅広いプログラムが考えられている。	固定児童によっては難しいプログラムがあり、曜日によってはプログラムが固定されてしま
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		時間や空間を分け、個別と集団活動を行っている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	朝、その日のプログラムを話し、役割分担や担当などはホワイトボードで示すようにしている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3		職員からその日の様子を聞くが、共有がその次の日になってしまう。LINEなどですぐに共有できる体制をとる。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		連絡帳や業務日誌、個別の活動日誌などで、記録を残している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			数か月に一度しか来ないお子さまだと、見直しが必要な場合がある。計画を見直す必要も出てくる。

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		児発管がスタッフから児童の情報を聞き、要点をまとめて、参加している。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	6		積極的な連携を取れていないため、少しずつ連携を取れるように体制を整えていく。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	5	児発管が保育園や幼稚園に赴き、連携をとる基盤を整えてきている。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	7	保護者様に児童情報を渡し、間接的な連携を取っている。		
	28	(28~30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)				児童情報など共有し、保護者の情報なども取り入れている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	7			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	9	地域のお祭りや文化祭などに赴き、地域住民とのかかわりを持っている。		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10		連絡帳やLINE、送迎時に口頭で説明等している。	連絡帳や送迎時の説明だけでは足りず、写真で活動の様子を希望する保護者様もいる。システムを作ればと思う。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	6		保護者様からのニーズも高まっており、開催を検討するが、開催した経験を持つスタッフがおらず、ノウハウがない。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時に行い、分からない時には個別に連絡相談を受け付けている。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		お聞き取り表などを配布し、保護者様や児童の意思を確認している。		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		電話や対面などで説明をし、確認を得てから、個別支援計画を渡している。		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		更新時には面談を行い、保護者様からの要望があれば、希望に沿って面談を設定することもある。		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		10		保護者様からのニーズもあり、茶話会などを企画している。ペアトレ時と同じく、ノウハウがなく、計画段階である。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		保護者様からの相談には、電話や面談で個別対応を受け付けている。		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		毎月カレンダーやお知らせをLINEでお知らせしている。Instagramやプログラムも活用している。		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		ブログやInstagram、口頭での連絡がある時にも、児童の個人情報が伝わらないように配慮している。		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		契約時に児童と保護者様の情報を共有し、情報を伝える際に気をつけることはスタッフ間で共有している。		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5		教室の広さの問題もあり、地域住民を招待することは難しい。地域の行事に参加することしかできない。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	3		マニュアルを作成しているが、周知が行き届いていない現状がある。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1		避難訓練は行っているが、不定期に数回のため参加する児童やスタッフに偏りが出る。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		契約時に行っている。		

非常時等の対応	48	食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	契約時に聞き取りをし、行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10			計画についての周知が足りていない部分もある
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		緊急時の対応が想定される際には、避難訓練や事前のお知らせなどで保護者様へ周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			ヒヤリハットを残しているが、見直すことは少なく、さらに役立てていける方法を考えていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		虐待防止研修を設けるとともに、普段からスタッフの行動を見て、虐待にあたらぬように直していく努力をしている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10			身体拘束を行うことはないが、身体拘束について理解はしておく。

公表日 2024年 12月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 広島井口教室

保護者等数(児童数) 34名 回収数 25件(割合74%)

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	20	3			2 ご意見なし	イベントに合わせて、 教室を移動したり、スペースを確保する対 応を続けていく。
	2	18	2	1		4 ご意見なし	児童に合わせて職員を配置していく。
	3	20				5 ご意見なし	保護者様にとって、 見えずらい環境とならないように、活動写 真や療育内容などで説明していく。
	4	19	2			4 ご意見なし	清潔に過ごしやすい 環境づくりを続けていく。
適切 な支 援の 提 供	5	21	3			1 ご意見なし	お子さまへ適切な支援を 行えるように専門性を高めていく。
	6	21	2			2 ご意見なし	集団活動に重きを置き、運動・感触・コ ミュニケーションなど幅広いプログラムを 用意していく。
	7	23	1			1 ご意見なし	保護者様のニーズをきちんと拾っていく。
	8	22	1			2 ご意見なし	
	9	23				2 ご意見なし	
	10	24	1			来月のスケジュールが発表されるのを毎 月楽しみにしています。	お子さまがあきないように、楽しく集中し てできるプログラムを考えていく。
	11	3	5	4		13 ご意見なし	地域のお祭りに参加したり、公園で地域の 子ども達と遊んだりとかかわりを持って いる。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	22	3			ご意見なし	契約時に説明を行っている。
	13	18	3	2		2 ご意見なし	
	14	3	6	7		9 ご意見なし	西区や広島市からくる講演会の情報など を保護者に送付するようにしていく。
	15	23	1			1 ご意見なし	保護者様からのご意見を拾い、 支援に役立てられるようにしていく。
	16	17	3	3		2 個別に面接するなどもう少し先生と意見 交換ができればよい。	面談についての案内を出し、 定期的な面談につなげてい。
	17	24				1 ご意見なし	児童一人一人を大切に、 保護者様の負担に寄りそった対応を心掛け ていく。
	18		4	10		11 保護者会や親子イベント等がないので、 また開催してほしいです。	支援現場を直接見学できる機会や 茶話会などを企画し、知ってもらえる場を ていようとしていく。
	19	19	3	1		2 ご意見なし	
	20	21	2			2 ご意見なし	普段の様子を送迎時や リトムなどで詳しく伝えていく。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	1		2	子ども自身がブログを楽しそうに見ている。	保護者様に分かりやすく、情報を発信していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1		4	ご意見なし	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	2	2	9	避難訓練をしたことがないと子どもが言っています。	年に数回しか避難訓練をしないため、訓練をしない児童が居てしまう。回数を増やしたり、口頭で説明等する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	4		11	ご意見なし	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	2	1	9	ご意見なし	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17		2	6	そのような状況になったことがない。	緊急事態を想定して、説明をしていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	24			1	毎回子ども楽しく通所できています。通い始めて1年経ちましたが、もっと早く通えばよかったと思うくらいです。いつもありがとうございます。	スタッフや他の児童に心を開き、安心して通えていると思う。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24			1	とても楽しみにしています。	楽しみにしていただけるように子ども達と触れ合っていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	1		1	臨機応変に送迎時間など対応していただき感謝しています。	研修などを積み重ね、専門性を高めていき、保護者様のニーズに応えられるようにしていく。

公表日

2024年 12月 20日

事業所名

こぼんはうすくら 広島井口教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		児発と放デイの部屋を臨機応変に使用している。	児発も放デイもいる時には、各自の部屋の中で活動を済ませる必要がある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		午前中は児発を中心に、午後からは放デイを中心にスタッフを配置するようにしている。	放デイの送迎の際には、現場が手薄になってしまうがちである。スタッフ間の声掛けが必要である。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		清潔にし、子ども達が活動しやすいようにおもちゃなどを整理している。	子ども達が中心となって片付ける習慣に繋がっていくように支援する必要がある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10			個別に使用できる部屋がない。教室の構造上、一人に慣れる場がない。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	3		PDCAサイクルを感覚的に理解しているスタッフが多く、研修などで知識とともに身につけていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1		年1回の自己評価アンケートのみ。保護者の意向をすくいとれるツールを考えていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		ミーティングやケース会議、何気ない会話の中で職員の意見を交換している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	6	3か月ごとにスーパーバイザに来てもらい、業務の見直しをしている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		研修案内を貼りだし、受けたい研修があれば積極的に受講できるように支援している。	研修を受けるための補助が少なく、現場の運営のため希望した者全員が参加できない時がある。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		子ども達が飽きないように、イベントを考えている。	毎日通う子は、同じようなイベントだと飽きて参加しなくなる。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10			現場スタッフから子どもの様子を聞き取り、まとめる時間がとりにくい。紙面などのツールを上手に使っていく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		ミーティングやケース会議を利用している。	普段、会議に参加しないスタッフにも聞き取りを行い、児童への理解を深められるように、多くの視点を取り入れられるようにする。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		個別の日報に、個別支援計画を差し込み、いつでも確認できるような配慮をしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	4		標準化されたツールがなく、日々の観察に頼っている節がある。使いやすいツールの開発が求められる。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	2		設定はされているが、具体的な支援に結び付いていない現状があるため、改善の余地がある。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		スタッフの専門性や特技を活かしたプログラム作りをしている。	児童からの要望も聞きつつ、飽きないようなプログラムを探して、考えている。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		幅広いプログラムが考えられている。	固定児童によっては難しいプログラムがあり、曜日によってはプログラムが固定されてしまっている。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		時間や空間を分け、個別と集団活動を行っている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		朝、その日のプログラムを話し、役割分担や担当などはホワイトボードで示すようにしている。	
21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1		職員からその日の様子を聞かすが、共有がその次の日になってしまう。LINEなどですぐに共有できる体制をとる。	
適切な支援	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		連絡帳や業務日誌、個別の活動日誌などで、記録を残している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			不定期になっているため、できるだけ定期的なモニタリングをしていく。



援 の 提 供	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	9	1	児発管が中心となって、支援を考えている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10			高学年になると意思ははっきりしてきて、プログラムに参加しないという選択肢も用意している。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		児発管を中心に、児童の情報を集めて、参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	9		本教室から連携を取ろうとすることは少ない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	5		送迎時に連絡事項を交換するくらいしかできず、情報共有を密にしていけることが必要である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	9		就学後、連携をとることは少ない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	9		卒業者がまだ少なく、情報提供などはまだ行っていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	8		必要に応じて助言を受けることが少なく、タイミングが合えば行っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	9	地域のお祭りや文化祭などに赴き、地域住民とのかかわりを持っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	1	研修には積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10		送迎時や連絡帳でのやり取り、写真を送られる子は、LINEで写真など送っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	8		保護者様からのニーズも高まっており、開催を検討するが、開催した経験を持つスタッフがおらず、ノウハウがない。
	保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時に行い、分からない時には個別に連絡相談を受け付けている。
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		お聞き取り表などを配布し、保護者様や児童の意思を確認している。	
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		電話や対面で説明し、同意を得ている。	忙しい保護者様だと、電話でもあまり時間が取れない。
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		電話やLINEにて、いつでも相談に応じられるようにしている。	面談にしていることを保護者様が知らない可能性もあり、周知が必要である。
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		10		保護者様からのニーズもあり、茶話会などを企画している。ペアトレ時と同じく、ノウハウがなく、計画段階である。
41		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		保護者様からの連絡があった際には、速やかに対応し、スタッフに事情等共有するようにしている。	
42		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		毎月カレンダーやお知らせをLINEでお知らせしている。Instagramやブログも活用している。	ブログだと、載せられる写真に限界があり、児童の顔も隠されているため、楽しんでいる様子が伝わりにくい。
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		ブログやInstagram、口頭での連絡がある時にも、児童の個人情報が伝わらないように配慮している。	
44		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		契約時に児童と保護者様の情報を共有し、情報を伝える際に気をつけることはスタッフ間で共有している。	
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	8		教室の広さの問題もあり、地域住民を招待することは難しい。地域の行事に参加することしかできない。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2		マニュアルを作成しているが、周知が行き届いていない現状がある。	
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10			避難訓練は行っているが、不定期に数回のため参加する児童やスタッフに偏りが出る。	
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		契約時に行っている。	アセスメントシートも定期的に渡し、成長に伴う変更に対応できるようにしている。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		契約時に行っている。	アセスメントシートに記入してもらい、料理イベントの際には確認して、アレルギーにも配慮する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		契約時に聞き取りをし、行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		緊急時の対応が想定される際には、避難訓練や事前のお知らせなどで保護者様へ周知している。	安全計画についての周知が足りていない部分もある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			ヒヤリハットを残しているが、見直すことは少なく、さらに役立てていける方法を考えていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		普段からスタッフの行動を見て、虐待にあたらないように直していく努力をしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10			身体拘束を行うことはないが、身体拘束について理解はしておく。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら広島井口教室		
○保護者評価実施期間	2024年8月1日		～ 2024年 10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59 (回答者数)	43
○従業者評価実施期間	2024年 9月 1日		～ 2024年 10月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童が通所を楽しみにしてくれており、保護者が安心して預けられる場所である。	スタッフが児童とたくさん遊び、児童との信頼関係をきちんと築き、継続的な支援を行うための関係性づくりに重きをおいている。児童の様子を通して、保護者を安心させるだけでなく、保護者の悩みにも寄り添い、個別に相談にのっている。	面談や相談をさらに気軽に利用できるようにする。児童との関係を崩さず、療育の質を高めていくように取り組んでいく。スタッフと子ども達の交流を大切にし、成長していく子ども達に寄りそえるように、研修などで知識を深めていく。
2	事業所の活動プログラムが固定されないように、考えられている。	前年度のイベントや他教室で行っているイベントを参考にし、他事業所で行われているイベントのブログなども見て、情報を集めている。スタッフ間でやりたいことなどを募っている。スタッフそれぞれの技能を活かしたイベントを企画している。	情報収集を欠かさず、児童の様子を見ながらできること、取り組ませたいことを考えていく。児童のやりたいことの要望にも答えていけるようにする。役割を分けて、できる事とできない事の差を上手にプログラムに落としこんでいく。
3	ブログやインスタグラムで、日々の活動を載せたり、保護者に直接利用児童の写真などを送って様子を伝えるようにしている。	連絡帳やブログだけでは分からない児童の様子を保護者に伝えられるように、個人LINEにて写真や動画を送って伝えるようにしている。保護者とのコミュニケーションにもなっている。	ブログやインスタグラムの更新頻度を増やしたり、内容を濃くしていく。個人LINEでの写真等の送付も、機会を増やしていく。家庭での様子などを写真にとって、送ってもらうなど双方向のコミュニケーションとして利用できるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母会の開催などがなく、保護者同士の交流が持ちにくい	コロナ禍にあったこともあり、集まりにくく開催を見送ってきた。ノウハウを知るスタッフもおらず、開催することが難しかった。	茶話会などを少人数で開き、少しずつ保護者同士が交流できる機会を増やしていく。父母会を経験したスタッフがおらず、ノウハウにかけている。開催のための情報を集め、父母会開催に向けての計画や準備を整える。
2	災害時の避難方法など、緊急時の対応の仕方が保護者に不透明である。	避難訓練は年に数回行っており、その日に参加した児童には内容が分かるようになっている。だが、希望状況もあり、参加するのはごく一部である。利用者全員に避難訓練の内容などは周知していなかったため、不透明になったと考えられる。	災害時のマニュアルや避難方法などを個別LINEなどでお知らせし、周知していく。スタッフも緊急時の対応で戸惑わないように、マニュアルを周知し、日頃から対応できるようにしていく。避難訓練の様子などをお知らせやブログ等で報告する。
3	児童館との交流など、地域の児童とのかかわりが少ない。	平日の放デイは移動している時間がなく、室内でのレクで終わってしまう。土日に地域の公園やイベントなどに行くこともあるが、地域の子ども達とのふれあいはあまりない。積極的に利用者が地域の子ども達と触れ合うことも難しい。	地域のイベントへの参加機会を増やし、地域の子ども達と交流できる機会を増やし、児童に機会を与えていく。地域の子ども達と一緒に遊んだり、交流できるように促していく。児童会などのスタッフと交流を持ち、本教室の特性を伝え、実現可能な参加方法を話し合い、模索していく。